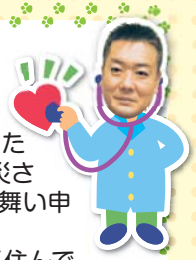
院長からのメッセージ



院長　石黒英昭

はじめに、3月11月に発生致しました「東北地方太平洋沖地震」において被災された多くの方々に対しまして心からお見舞い申し上げます。

私自身、東北（青森・仙台）に10年近く住んでいた事もあり、思い出がたくさんある地でもあります。1日も早い復興を祈るばかりです。

さて、今回のニュースレターは、皮膚の構造と皮膚病についてお話ししてあります。犬・猫（特に犬）にも花粉症があり、皮膚にアレルギー症状として出ることが多いです。快適に暮らせる様、何か参考になればいいなと思います。

春です！予防が始まりますよ

フィラリア　ノミ・マダニ　狂犬病予防

ワンちゃん

フィラリア予防には、例年どおり錠剤タイプのものと、お肉の固まりチュアブルタイプのものを用意しています。投薬の前に血液検査を行います。

ノミ・マダニの予防には、フロントラインスポット（首筋につける液体）を用意しています。

狂犬病の注射の時には、愛犬手帳と市からのハガキを持参して下さい。

家ではおとなしいけど、病院に来ると怒ってしまうワンちゃんは、お家から口輪をしてくるのもいいかもしれませんね。写真のように、プラスチック製の口輪が苦しくなくて安心です。市販でも購入できますし、当院にも置いてありますのでご相談下さい。

ネコちゃん

フィラリア・ノミ・ミミヒゼンダニ（耳ダニ）・回虫（おなかの虫）の4つが予防できるレボリューションという首筋につける液体を用意しています。（ワンちゃんにも同様のお薬はありますが、フィラリアの感受性が高いことで確実に服用させる飲み薬にしています）

ノミ・マダニの予防だけでよいという方は、従来どおりフロントラインスポットも用意していますので、ご相談下さい。

フェレット

ネコちゃん同様にレボリューションを使用しています。チュアブルタイプ、粉薬も用意していますので、ご相談下さい。

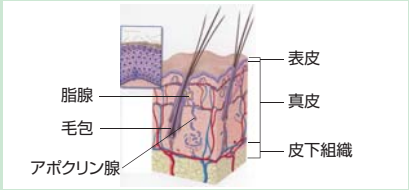
例年、土曜日の診察は混み合います。平日（特に午前中）にご来院いただくと、比較的スムーズに診察ができると思います。

What 動物の病気

皮膚病

日々の診察の中で、皮膚病で来院されるワンちゃん、ネコちゃんはとても多いです。その理由のひとつに、ワンちゃん、ネコちゃんたちの皮膚の構造の違いがあります。

正常な皮膚



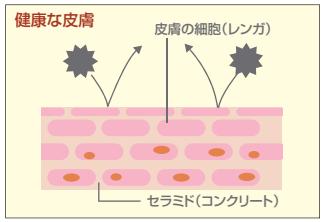
表皮（角質層）　微生物の侵入を防いだり、保湿の役目をする。真皮の脂腺から分泌される脂肪の膜（脂肪酸）で、皮膚の乾燥や必要なミネラルが失われないようにする。

真皮　コラーゲン繊維があり、皮膚に張りを与える。このコラーゲン繊維があることで、弾力性があり外からの力に傷つきにくくなっている。

皮下組織　主に脂肪と少量の筋肉で成り立っている層

ワンちゃん、ネコちゃんたちの表皮（角質層）は、私達人間よりもずっと薄くデリケートにできています。
人間では表皮は、10～15細胞層があるのですが、ワンちゃん、ネコちゃんは3～5細胞層であり、人間に比べたら1/3しか厚みがないと言われています。その為、ワンちゃん、ネコちゃんたちの皮膚は外部からの刺激にとても弱く、皮膚病を起こします。

ここで、皮膚の細胞をレンガ、隙間のセラミドをコンクリートといったレンガを積んだ壁に例えてみます。
皮膚の細胞（レンガ）の隙間をセラミド（コンクリート）が埋めることで壁としての働きをしています。このコンクリートがなくなると、その隙間から色々な物（アレルゲン）が入ってきます。
アトピー性皮膚炎では、このセラミドが少なくなっており、からだの中から水分が出やすく乾燥肌になり、外からはアレルギーを起こすハウスダスト（アレルゲン）などが侵入しやすくなっています。



皮膚病にならないための予防として、シャンプー療法があげられます。よく「人間用のシャンプーで洗っていいですか?」という質問を受けます。
ワンちゃん、ネコちゃんと人間の皮膚は、pH（ペーハー）も違います。人間の皮膚のpHは5.5～6.5の弱酸性、ワンちゃん、ネコちゃんは品種によっても異なりますがpH6.2～8で平均7.5の弱アルカリ性です。よって、ワンちゃん、ネコちゃんにはpHが合わせてある専用のシャンプーを使って下さい。シャンプーの行い方は、ニュースレター14号で説明してありますので参考にして下さいね。
（ニュースレターのバックナンバーはホームページでも見ることができます。）

春～夏にかけて、多い皮膚病をここであげます。

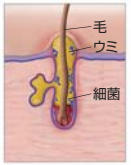
膿皮症（のうひしょう）　…犬に多い

皮膚に付着している細菌が増えすぎることで、赤いブツブツ、かゆみ、脱毛などが起こります。最初は毛穴に入った細菌が増えてウミがたまり、ヒトのニキビのような小さなブツブツを作ります。悪化すると破裂し、ドーナツ状や円形となって広がります。

●この病気にかかりやすいのは…
気温や湿度が上がる時期
皮膚や毛のよごれ
他の病気（アトピー性皮膚炎・ホルモンの病気など）にかかっている
ステロイド剤の投与中

●症状
かゆみ、赤いブツブツ、ドーナツ状や円形の赤みや脱毛など

●治療
お薬やシャンプーの組み合わせで治します。抗生物質は細菌が排除されるまで服用します。
シャンプーは1～2回／週。



膿皮症のときの毛穴の様子

マラセチア皮膚炎　…犬に多い

マラセチアはカビの仲間で、動物の皮膚や耳の中に少数いるのですが、これが増えすぎると体がベタベタして脂っぽくなり、独特のにおいや強い赤みを示し、かゆみも強くなります。犬によくみられますが、猫でもまれにみられます。

●この病気にかかりやすいのは…
どの犬や猫にもかかる可能性がありますが、特にアトピー性皮膚炎や脂漏性皮膚炎にかかっている動物に多くみられます。

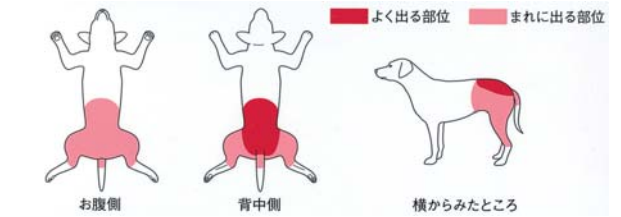
●症状
赤み、べたつき、肥厚、脱毛、かゆみ、外耳炎、悪臭

●治療
お薬やシャンプーで治します。症状によっては、週に2～3回のシャンプーが必要です。

ノミアレルギー　…ネコに多い

ノミの吸血に対するアレルギーで、強いかゆみを示します。たとえわずかなノミしかいなくても、その寄生数に関係なく発症します。ノミが繁殖しやすい春先から夏場にかけてみられます。

●症状が出やすい部位



●症状
腰や背中にブツブツした皮膚炎、強いかゆみ、ノミの糞が毛の根元に付着

●治療
フロントラインスポット、あるいはレボリューションなどを用いて、ノミを駆除します。症状によってお薬を飲ませます。

皮膚病は非常に多い病気であり、また治りにくい病気とも言われています。悪化すれば治療が長引き困難になります。かゆみがひどくなると、ワンちゃん、ネコちゃんはいらいらして精神状態がおかしくなる事もあります。こまめなシャンプーで予防を行い、皮膚の異常を早めに見つけて下さいね。